

(Lonely Night Gathering)

さみしい夜の句会報 第162号 (2024.3.24-2024.3.31)

- ◆ 参加者：しまねこくん、雷(らい)、かれん、水の眠り、片羽雲
雀、亀野歩、カメノアホ、汐田大輝、佐竹紫田、西脇祥貴、くろくさわ
たお、クイスケ、石原とつき、おかもとも、花野玖、りゅう
せん、温(ぬる)、夜鳥、西沢葉火、帰つてきた笛地静恵、奈津実
古城エツ、蔭一郎、紗千子、酔名、石川聡、池田突波、宮坂愛
哲、馬勝、れいすいき、Rei Suki、守宮、朝森だけ、しろうとも、たろ
りずむ、ヒューム・マシク、風ちひろ、Tatsuo Kanase、何となく短
歌、乃り子、小沢史、城水めぐみ、星野響、岡村知昭、Chika
梅呂、やは、ゆりのはなこ、輪井ゆう、じぞういぬ、月波与生
（五〇名）

◆川柳・俳句

義務あの世へはひとり携帯せよ 奈津実
フェード・インしてこそ春の夜明けなり 池田突破
たまねぎがさらさらにするわだかまり 石川聡
ファンタならずでに心で飲んでいる おかもとも
春の雨泣くのも飽きてアジフライ 馬勝
語尾にP付けるカースト木の芽時 馬勝
図書館のサロメ全集を並び替え クイスケ
サロメ初戸山公園飲みでキス ヒューム・マシク
ごらんあれがプテラノドンの屁の化石 岡村知昭
相槌の代わりに唸る冷蔵庫 しろうとも
偽博士の蜜あふれ出すマンドリン 汐田大輝
逆さまの戦車になっていくチューバ 汐田大輝
歌舞伎座の絢爛に似るあわび貝 汐田大輝
ハイヒール脱ぐと転調するうなじ 小沢史

うつくしい紐をおろしてくる月ね 小沢史

花曇いづれは句読点を打つ 夜鳥

穴を出た蛇が訂正するニュース 蔭一郎

ジャパンからニッポンまでの長い雨 Tatsuo Kanase

学年が一つ違へば海女と貝 しまねこくん

巻き寿司の巻を戻して鳥曇 しまねこくん

ぬくもりのどこが痒いか言ってくれ かれん

いろいろとあつて竜宮取り壊し りゆうせん

スラツシユは豚の心臓弁だから りゆうせん

春風は薄っすら消える住所録 雷

椿落ちテデイベアにも打つ麻酔 紗千子

凶鑑から消えたわたしの復元画 城水めぐみ

*

さくら咲くころはしばむ年度末 亀野歩

かんとんにひと信ずるなめばる釣 SYUSYU

空の涙として枝垂桜かな 佐竹紫円

採寸が済む前の中島みゆき 西脇祥貴

まだ君が保護馬だったときのこと くらさわたお

白目でも黒目でもなく逆王手 おかもとかも

初花や撮らるゝことの銜ひなく 花野玖

時計のパリは戻らない 西沢葉火

花束の影に笑いを隠したね 帰ってきた笛地静恵

水温むまで席を外すと上司 蔭一郎

正解のない質問をする女 宮坂変哲

春月に結膜炎をうつされる solio 守宮

ビー玉が喉に詰まった時の味 くらさわたお

数独からこぼれた数字雲に鳥 星野響

花園のセックスレスは柔らかい やは

絶対に目を反らす道路標識 輪井ゆう

*

おたまじゃくし散り散り兄が欲しかった 月波与生

◆ 短歌

真夜中の「嗚呼ー」の返事「いいー」と来あいつはちゃ
んと親友なんだ 水の眠り

*

露の世の細く細かく挽けぬ理由さぐれば泡立つ夜の珈琲
片羽雲雀

フライングな童話な馴れ馴れしい思春期 石原とつき

引き上げた荷物の多くは日の目見ずやけに重たい私の歴史
古城エツ

酒なしで気分があがるようなこと全くないタイプの 20代

後半 酔名

「常識」を何度も何度もぶつけられ壊れました私の良識
れいすいき

日本一なのに開幕ビジターでよりもよって東京ドーム
たろりずむ

今を生く一人ひとりが遺伝子の変異の末端 試されている
何となく短歌

気まぐれで飾られた花かわいそうだね碌な世話もしてやれ
ずに 乃り子

忘れ草のんでしまえばあなたごと愛したことも忘れてしま
う KRLjb

春雷の轟音さえも子守り歌魔法を使い猫になりたし 温々
み

何もかも放り投げたいそんな夜繁華街でも行けたらいいの
に 凧ちひろ

三月の有効期限サヨウナラ四月になったらはじめましてを
ゆりのはなこ

◆詩・短文
投稿された作品はありません。

◆作品評から

ハイヒール脱ぐと転調するうなじ 小沢史

くハイヒール。これは、いろっばい。ホテルの部屋に入る。彼女が、スリッパに履き替える。後ろ姿のうなじの表情が変わる。男は、背後から抱き締めたくなる。長調から短調へ。日常から非日常へ。変化するあの一瞬。二人だけの世界へ。見事に捉えた。(帰ってきた笛地静恵)

nanmania！サブリミナルお父ちゃん 片羽雲雀

く「サブリミナルお父ちゃん」が謎。映画『マンマ・ミーア！』を再度観れば何かわかるのかな。(月波与生)

社会派かエンタメ派かと分けんなよただ底流に転がる小石 水の眠り

くいつの時代のローリングストーンズが好きか？というどうでもいい話で一晩おいしい酒を飲めそうであるが彼らの歌を社会派かエンタメ派かとくだらないことは言わないだろう。(月波与生)

寄って来る鳩がわたしの目を見ない souko 守宮

く鳩はだいたいそんなもんだと思うが川柳で読むとドキリとする。中高年のサラリーマンが生まれ変わったらなりたいたいの1位が鳥。(月波与生)

それが恋恋だったんだ「さよなら」と落ちた涙で溶ける
バスボム 月立耀

〜何ととっても「バスボム」がいい。そっか、落ちた涙
で溶けるのか、切ない「バスボム」。 (月波与生)

乳歯抜け春の長雨へとつづく 蔭一郎

〜「乳歯」で始まり「長雨」へ繋げたのは見事。あえて
言うなら「つづく」は書かなくても読み手には分かる、か
な。 (月波与生)

時計のバリは戻らない 西沢葉火

〜ベルはリンリン鳴るけれど (じぞういぬ)